三河湾で絶滅危惧種の巻貝 ウミヒメカノコ類似種(アマオブネ科)の死殻を確認

西 浩孝*

Record of an endangered gastropod,

Smaragdia sp. aff. bryanae (Neritidae) from Mikawa Bay, Aichi Prefecture, central Japan

Hirotaka Nishi*

はじめに

ウミヒメカノコ Smaragdia sp. は、内湾及び湾口部の低潮帯~水深 40 m の砂底ないし砂泥底の海草藻場に生息するアマオブネ科腹足類である(山下・久保、2012). 本種は以前 Smaragdia paulucciana (Gassies, 1870) の学名の下に報告されることが多かったが、この学名はレモンカノコ Clithon pauluccianus のものであることが判明したことから、現在は Smaragdia sp. として学名未決定種として扱われる(福田ほか、2014).

近年、ウミヒメカノコとされてきたものの中に類似の別種が含まれていることが明らかになってきた(以下、類似種と表記). この類似種は宮崎県から「ウミヒメカノコ属の 1種 Smaragdia cf. souverbiana (Montrouzier, 1863)」として報告されており(三浦ほか,2012),宮崎県 2015 年度版レッドリスト(https://www.pref.miyazaki.lg.jp/shizen/kurashi/shizen/page00193.html,2019 年 11 月 30 日閲覧)において「ウミヒメカノコ同属種 Smaragdia cf. bryanae」として絶滅危惧 II 類に指定されている。また,愛知県レッドデータブック(木村,2009)にウミヒメカノコ Smaragdia sp. として掲載されている写真は実際には類似種の方であり,今後の改定時に訂正されるとのことである(木村昭一氏,私信). また,大阪府でも類似種の生貝が採集されてい

る(https://amamobazukan.seesaa.net/article/a35903375.html, 2019 年 11 月 30 日閲覧). ウミヒメカノコと類似種は、 殻の模様で区別が可能である.

ウミヒメカノコ類似種の生息環境については、三浦ほか (2012) ではアマモ場及び砂質底・岩礁から得られている。また、大阪府ではアマモの葉上から得られている (https://amamobazukan.seesaa.net/article/a35903375.html, 2019年11月30日閲覧).

愛知県では正式な生息記録はなく、伊勢湾湾口部の小規模なアマモ場から死殻が数個体採集されているのみである(木村,2009).このような状況から、愛知県環境部(2015)では絶滅危惧 IA 類に指定されている.

著者はこのたび、愛知県豊橋市杉山町の紙田川河口 においてウミヒメカノコ類似種の死殻を確認したので 報告する.

採集状況

紙田川は三河湾奥部, 汐川干潟の北側に流入している河川である。河口部には砂泥質及び礫が見られる河口干潟が広がり、潮上帯にはヨシなどが生育する塩性湿地が見られる(藤原ほか, 2002). 紙田川の底生生物相については藤岡・木村(2000)が汐川干潟と合わせて報告しているほか、環境省が実施している生物多

原稿受付 2019 年 12 月 10 日. Manuscript received Dec. 10, 2019. 原稿受理 2020 年 2 月 5 日. Manuscript accepted Feb. 5, 2020. キーワード: 干潟、底生生物、干潟、豊橋市、愛知県. Key words: tidal flat, benthos, Toyohashi City, Aichi Prefecture.

^{*}豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan. E-mail: nishi.hirotaka@gmail.com



第1図. 2016年5月22日干潮時の紙田川河口.

様性調査,モニタリングサイト 1000 の汐川干潟サイトの C エリアが設置されており,底生生物のモニタリングが実施されている(環境省自然環境局生物多様性センター,2013).

調査を行った 2016 年 5 月 22 日は大潮で、干潮時刻 12 時 9 分の潮位は 25 cm(気象庁ウェブサイト http://www.data.jma.go.jp/kaiyou/db/tide/suisan/index.php に よる 三河(愛知県豊橋市神野ふ頭)の潮位予測)であった(第 1 図). 底生生物を調査するため、水深 20 \sim 30 cm 程度の底質の泥を 1 mm 目の篩にかけたところ、ウミヒメカノコ類似種の死殻及び破片が採集された。その後の複数回の調査でも同河口において死殼が採集された。

標本

アマオブネ科 Neritidae

ウミヒメカノコ類似種 *Smaragdia* sp. aff. *bryanae* 標本:3 個体(豊橋市自然史博物館貝類標本 TMNH-MO-28052~28054), 愛知県豊橋市杉山町 紙田川河口(北緯 34.6954°, 東経 137.3179°).

1個体は殻表に光沢が残る比較的新鮮な死殻であったが (第 2. A図), 1個体は光沢がほとんど失われ, 死後時間が経過していると思われる死殻であった (第 2. B図). 破片は殻軸を含まない体層部であった(第 2. C図). 殻高 1.68 ~ 2.70 mm, 殻径 2.35 ~ 2.73 mm.

議論

比較的新鮮なものを含む死殼が複数個体採集された ことから、三河湾奥部においてウミヒメカノコ類似種 が最近まで生息していたことが明らかになった. さらに、現在も付近に生息している可能性も少なくない.

ウミヒメカノコ類似種はアマモ場に生息すると報告されており、食草もアマモ等の可能性が高い. 愛知県でウミヒメカノコ類似種が現在も生息しているとすると、アマモまたはコアマモを食草としている可能性が高い. コアマモは三河湾奥部では豊川河口の左岸側に広がる六条潟に生育している. 2016年5月23日,ウミヒメカノコ類似種の生貝の発見を目的に、六条潟においてコアマモの葉および根本の砂を1mm目の篩にかけたものの、死殻も確認できなかった. 今後、継続して調査を行い、生貝が発見されることを期待したい.

謝辞

本種の同定についてご教示いただくとともに文献についてご教示いただいた国立科学博物館の芳賀拓真氏,愛知県における生息状況等についてご教示いただいた三重大学の木村昭一氏に感謝申し上げる.

引用文献

愛知県環境部, 2015. 第三次レッドリスト レッドリストあい ち 2015. 愛知県環境部, 愛知, 48 p. http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/redlist/redlist_2015.pdf (2019 年 11 月 30 日閲覧).

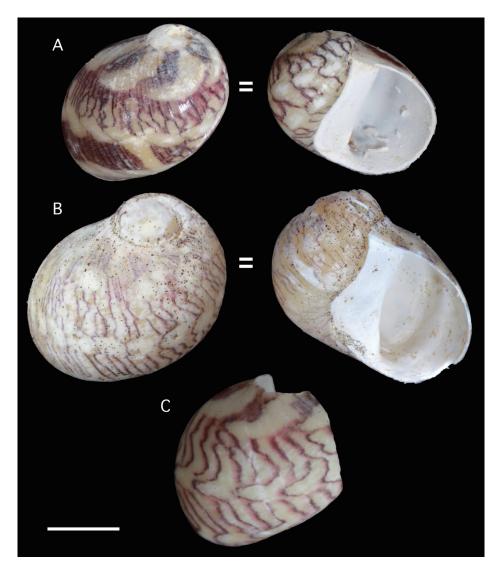
藤原直子・木村妙子・藤岡エリ子,2002. 三河湾汐川干潟の塩性湿地植生. 豊橋市自然史博物館研究報告,(12):41-48. 藤岡エリ子・木村妙子,2000. 三河湾奥部汐川干潟の1998年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告,(10):31-39.

福田 宏・藤野睦子・江田伸司,2014. 岡山県倉敷市高洲で生貝が見出されたウミヒメカノコ (腹足綱:アマオブネ科),並びに同種とキンランカノコ・レモンカノコを巡る同定の混乱. 倉敷市立自然史博物館研究報告,(29):29-38.

環境省自然環境局生物多様性センター,2013. モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 (磯・干潟・アマモ場・藻場)2008-2012 年度とりまとめ報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター,富士吉田,92 p.

木村昭一, 2009. ウミヒメカノコ. 愛知県環境調査センター(編), 愛知県の絶滅の恐れのある野生生物 レッドデータブック あいち 2009 - 動物編 - , 愛知県環境部自然環境課, 愛知,

三浦知之・三浦 要・富岡 宏・佐伯めぐみ・三橋利恵, 2012. 宮崎県門川町庵川アマモ場とその周辺に出現する貝類, 甲



第2図. 紙田川河口で採集されたウミヒメカノコ類似種. 上から TMNH-MO-28052, 28053, 28054. スケールバーは 1 mm.

殻類および腕足類. 宮崎大学農学部研究報告, **58**:51-68. 山下博由・久保弘文, 2012. ウミヒメカノコ. 日本ベントス学会(編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑海岸ベントスのレッドデータブック, 東海大学出版会, 秦野, 24.